

令和5年度 授業改善推進プラン

昭島市立瑞雲中学校

教科	授業・指導方法の課題 生徒の実態	授業改善の方策	補充・発展等の具体的な方策及び指導計画	
国語科	<p>(1) 授業に意欲的に取り組む生徒が多く、話す・聞く力は高められてきているが、文章の読解力・作文力には課題がある。</p> <p>(2) 発問の内容を理解して、自分の考えや課題の答えを文章化する力が十分に身に付いていない。</p> <p>(3) 宿題にしている漢字練習への意欲が生徒によって差がある。</p>	<p>(1) 本文の重要箇所に線を引きながら読む習慣を身に付けさせる。根拠を明確にして答える練習をする。</p> <p>(2) 発問はなるべくシンプルにわかりやすくする。答え方を示してから考えさせる。</p> <p>(3) 授業内で5分間、漢字練習ノートに取り組む時間を設け、取りかかりをつくる。週1回程度小テストを実施することで知識の定着を図る。</p>	補充	<p>・机間指導を丁寧に行い、一人一人の習熟度に応じて支援をする。</p> <p>・「書く」ことが苦手な生徒には、本文に線を引いたり、キーワードを挙げたりすることから取り組ませる。</p>
	<p>(1) 話す・聞く・読む力は着実に伸びてきているが、書く力が身に付いていない。</p> <p>(2) 班活動を活発に行うことができる。</p> <p>(3) できる生徒と苦手な生徒の差があり、全体での時間配分が難しい場面がある。</p>	<p>(1) 200字程度の短い作文に取り組みせ、文章の分かりやすい構成や適切な語句について学習する。</p> <p>(2) 班で協力して問題解決をさせることで、国語に対する苦手意識がある生徒の意欲向上や得意な生徒の発言・活躍の場の広がりを図る。</p> <p>(3) できる生徒には、追加の課題を用意してさらに理解を深めさせ、苦手な生徒には個別の指導をする時間を設ける。</p>	補充	<p>・作文では、構成の型を示し、それにしたがって書けるよう支援する。</p>
	<p>(1) 授業に意欲的に取り組み、基礎基本が定着している。</p> <p>(2) 自分の考えに自信をもって発表することが難しい。</p> <p>(3) 全国学力調査の結果を見ると、話すこと・聞くことが苦手傾向にある。漢字など知識技能は高い傾向にあるが、要旨を把握すること、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題がある。</p>	<p>(1) 基礎基本を活用できるように、応用問題や発展問題を取り入れた学習活動を組む。</p> <p>(2)</p> <p>① 様々なものの見方や意見に触れる機会を増やし、自分の考えに生かすことができるようにする。</p> <p>② 自分の考えに自信がもてるように、認め合う活動を取り入れる。</p>	補充	<p>・個別添削や個別指導を充実させ、一人一人のつまづきを明確にして支援する。</p> <p>・教材文だけでなく、関連した資料や作品を提示する。</p>
		発展	<p>・習熟度別に取り組む課題やプリントを選択できるようにする。</p>	

# 令和5年度 授業改善推進プラン

昭島市立瑞雲中学校

教科	授業・指導方法の課題 生徒の実態	授業改善の方策	補充・発展等の具体的な方策及び指導計画		
社会科	1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な語句や国の場所を覚えることに関しては比較的出来る傾向があるが、社会的な知識を活用する能力は低い傾向がある。</li> <li>生徒の学習傾向が知識の伝達に偏る傾向があり、内容を深めたり分析したりすることが不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識の定着のみならず、文章化したり、話し合わせたりする活動を多く取り入れる。</li> <li>説明は分かりやすく、かつシンプル、コンパクトにするよう心掛け、生徒が社会的事象を考察する時間をしっかり確保する。</li> <li>映像など、視覚に訴える教材や資料などを多く用意することで、興味・関心を引くようにする。</li> </ul>	補充	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組が十分でない生徒を中心に机間指導を丁寧に行う。</li> </ul>
				発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題について自分の考えを文章にまとめ表現する課題を多く課して、その課題の評価を生徒にフィードバックする機会を設定する。</li> </ul>
	2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な知識・技能はある程度定着しているものの、社会的事象に対する比較・推論・批判などが苦手である。</li> <li>導入から内容への展開に工夫が足りない</li> <li>生徒は活動に対して取り組む姿勢が見られるが、積極的な活動は見られない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員から与えるだけの授業ではなく、資料の読み取りの時間を増やしていくとともに、複数の資料を読み解く機会を増やしていく。</li> <li>興味、関心を引く導入を実践する</li> <li>発問や作業内容を分かりやすくし、活動に対して取り組みやすくする</li> </ul>	補充	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組が十分でない生徒を中心に机間指導を行う。</li> </ul>
				発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題について自分の考えを文章にまとめ表現する課題を課す。</li> </ul>
	3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>公民の学習では生徒が現実の社会問題を教科の学習と結び付けられていないことも多い。</li> <li>復習確認テストでは、社会科の偏差値が 49.8 と下降し始めてしまっている。</li> <li>受験を意識しすぎて、知識的な内容に偏る傾向にあった</li> <li>授業内活動や話し合いに意欲的に取り組めていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現実のニュース映像や新聞資料を提示したり、具体的な社会事象の事例の分析を通じて社会的な関心を高めていくようにする。</li> <li>小テストなどを実施し、生徒の学習の機会を増やすとともに、生徒の理解度を細かく確認していく。</li> <li>社会的興味、関心を引く内容や考えやすい発問を毎回取り入れていく。</li> <li>関心を引く内容や、「なぜ」という疑問を抱かせる等工夫を凝らす。</li> </ul>	補充	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組が十分でない生徒を中心に机間指導を行う。</li> </ul>
				発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の資料から読み取った情報についてまとめる(記述する)作業を行わせる。</li> </ul>

# 令和5年度 授業改善推進プラン

昭島市立瑞雲中学校

教科	授業・指導方法の課題 生徒の実態		授業改善の方策	基礎・標準等の具体的な方策及び指導計画	
数 学 科	1 年	<p>(1)計算力に課題が残る。方程式の解き方がなかなか理解できない生徒が多い。特に関数の領域が著しく苦手である。</p> <p>(2)授業には意欲的に取り組める生徒が多い一方、家庭学習が足りず、宿題などの提出物への「出さなければならない」という意識が低い。できなかった問題の復習をやっている生徒が少ない。また、基礎クラスでは既習事項が身に付いていない生徒もいる。</p>	<p>(1)計算においては、毎回の宿題で反復の徹底を行う。図形・関数の領域では解決意欲を高めるために、日常生活に結びつけた問題やパズル的な要素を取り入れた問題を導入等で積極的に扱う。また、定期的にプリントでの計算練習を行い、計算方法の定着を図る。</p> <p>(2)基礎・基本事項の徹底を図るとともに、文章からの立式などにも焦点を当てた授業を展開する。また、「復習の仕方」についても何回も伝え、そもそもの学習のやり方から指導していく。</p>	基礎	<p>基礎、基本事項の定着を目指し、基本問題を繰り返し取り組む授業展開を行う。少人数クラスを生かし、個に応じた指導を行う。</p>
		標準	<p>幅広い学力層のため、基礎、標準問題はもちろん発展的な問題にもととき取り混ぜせ、意識や関心を持たせる指導を継続して行う。また、自分の考えを伝え、教え合う数学的な活動も取り入れる。(グループ学習)</p>		
	2 年	<p>(1)生徒は落ち着いているが、必ずしも意欲的に取り組んでいるとはいえない生徒もいる。注意しないと授業中道具を出さずに何もしない生徒や、途中から伏せて寝る生徒もちらほらいる。</p> <p>(2)提出物についてもきちんとやっている生徒とやっていない生徒の差が大きい。取り組みの方法も途中の式などを丁寧に書いていない、何をやっているかわからないような提出物も多い。</p> <p>(3)既習事項が定着していない生徒が多い。今までに習った事柄の復習をしっかりすることが大切であることを折に触れて伝えていく。</p>	<p>(1)授業の始めに既習事項の確認を行い、授業が理解しやすいように配慮すると共に、授業の中でも常に復習を取り入れていく。</p> <p>(2)提出物の取り組み方や全体的な注意をクラス配布して連絡の徹底を図る。</p> <p>(3)生徒の状況を把握し、生徒の力量に応じて課題の適正化を図る。</p> <p>(4)少人数クラスによる、生徒の状況に合ったよりきめ細やかな指導を実施していく。</p>	基礎・標準	<p>基礎、基本事項の定着を目指し、基本問題を重点的に説明し、その演習を行う。特に基礎的な生徒には可能な限り個別指導を行っていく。</p>
		発展	<p>基本的な問題は早く終わるので、少し発展的な問や見方を授業の中で可能な限り展開していく。章の問題で難しい問題への挑戦を促していく。</p>		
	3 年	<p>(1)全国学力調査の結果を見ると、図形とデータの活用の領域が苦手傾向にある。特にデータの活用領域が著しく苦手である。一方、関数、計算力は比較的多くの生徒に身につけている。</p> <p>(2)授業に対して、意欲的に取り組める生徒が多いが、集中力がもたなかったり授業道具を忘れてしまったりする生徒が一部いる。また、家庭学習が定着していない生徒がいる。</p>	<p>(1)図形やデータの活用の領域では既習事項の確認をしっかり行うとともに、解決意欲を高めるために、日常生活に結びつけた問題やパズル的な要素を取り入れた問題を導入等で積極的に扱う。</p> <p>(2)授業で取り扱う問題の難易度を各クラスで精選する。定期考査前や長期休業日前にワーク等の課題を出し計画的に家庭学習を促す。</p>	発展・標準	<p>基礎・基本を徹底させるとともに教科書以外の難しい問題も扱っていく。「思考・判断・表現力」を身に付けさせるように説明する場面や他者の意見を聞き、考えを練り直すような場面をできる限り設ける。</p>
		基礎	<p>基礎・基本の定着に主眼を置く。計算問題や求積問題など「知識・技能」を身に付けさせるような問題を多く扱う。授業の振り返りを行い、自己評価をし、自分の課題を見つけられるような場面を設ける。</p>		

# 令和5年度 授業改善推進プラン

昭島市立瑞雲中学校

教科	授業・指導方法の課題 生徒の実態		授業改善の方策	補充・発展等の具体的な方策	
理科	1年	<p>(1) 1学期期末考査の結果より、「思考・判断・表現」に関する観点は得点率 59.7%、「知識・技能」に関する観点は得点率 69.0%であった。この結果を受けて、全体として学習に取り組み学習内容の定着ができており、「自然に関する思考力・判断力・表現力」の定着が比較的課題であると考えられる。</p> <p>(2) 記述問題に苦手意識を持っている生徒が多い。</p>	<p>(1) 実験や作業を多く取り入れ、事前の予想と結果からの考察に取り組み、科学的に筋道を立てる力を身に付けさせる。</p> <p>(2) 思考力・判断力を試す問題演習に取り組む機会を多く設け、対応できる力を身に付けさせる。今後、計算問題もおおくなっていくので、基礎問題に多く取り組ませることで、計算の得意な生徒の理解力を高め、苦手意識をもつ生徒の底上げを図っていく。</p>	補充	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎計算問題や記述問題を多く解かせる。</li> </ul>
				発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>入試問題を取り入れ、生徒の思考力を高める。</li> </ul>
理科	2年	<p>(1) 1学期期末考査の結果より、「思考・判断・表現」に関する観点は得点率 50.3%、「知識・技能」に関する観点は得点率 68.2%であった。この結果を受けて、「知識・技能」についてはある程度定着しているが、「自然に関する思考力・判断力・表現力」の定着が課題であると考えられる。</p> <p>(2) 計算問題、記述問題などに苦手意識を持っている生徒が多い。</p>	<p>(1) 日々の授業の中で、実験観察で考える機会を多く確保し、自分の立てた仮説と実験結果を比較し、なぜそのような結果になったかを自分で分析できるようにする。身近な自然現象を題材にして疑問関心を高めていく。</p> <p>(2) 問題演習の時間を多くし、問題量をこなすことで計算・記述問題をできる生徒を増やす。ペア学習を通して学び合いを行う。</p>	補充	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎問題を反復して解かせる。</li> </ul>
				発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>入試問題に触れることで生徒の思考力を高める。</li> </ul>

	3年	<p>(1) 1学期期末考査の結果より、「思考・判断・表現」に関する観点は得点率 49.3%、「知識・技能」に関する観点は得点率 63.2%であった。この結果を受けて、「自然に関する思考力・判断力・表現力」、「知識・技能」ともに定着に課題であると考えられる。また、計算を用いる問題や説明をする問題にも課題が見られた。</p> <p>(2) 計算問題、記述問題などに苦手意識を持っている生徒が多い。</p>	<p>(1) 日々の授業の中で、学び合いを行い学習の意欲を高める。また、思考力を高めるために科学的に説明することを多く取り入れる。また、実験を通して、自分の立てた仮設と実験結果を比較し、結果から科学的に説明することを話し合いや自分で思考することを随時行っていく。</p> <p>(2) 問題演習の時間を多くし、問題量をこなすことで計算・記述問題をできる生徒を増やしていく。</p>	補充	<ul style="list-style-type: none"> <li>都立入試<sup>1</sup>、<sup>2</sup>程度の基礎問題を使って、基礎知識の定着を図る。</li> <li>重要語句とその意味をリンクさせて覚えられるよう、ゲーム形式の教材を用いて反復練習する。</li> </ul>
				発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験考察で、より発展的な課題を提示し、思考力・表現力を高める。</li> <li>入試問題を授業で扱い、実践力を高める。</li> </ul>

# 令和5年度 授業改善推進プラン

昭島市立瑞雲中学校

教科	授業・指導方法の課題 生徒の実態	授業改善の方策	補充・発展等の具体的な方策	
音楽科	<p>&lt;生徒の実態&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○表現活動（歌唱と合唱・リズム作品創作等）に意欲的な生徒が多く全体的に前向きに表現をすることができる。</li> <li>○音符や休符、発想標語や速度記号等の楽典的な学習内容について関心を持ち、知識の習得に意欲的な生徒が多く見られる。</li> </ul> <p>&lt;指導方法の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○表現に関する基礎練習の継続的な指導の徹底。</li> <li>○楽典に関する学力の定着を図る指導の創意工夫。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画的にスモールステップでリズム創作の基礎知識や身体表現の方法についての指導を徹底していく。</li> <li>○歌唱の実技テストを通して、個々の基礎知識や表現力を把握し、一人一人に応じた改善策をもって指導する。</li> <li>○定期考査を行うことで不十分な知識を把握し、適切な指導を行う。</li> </ul>	補充	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業時の表現学習（創作・歌唱や合唱等）において、個に応じた適切な助言を行う。</li> <li>○授業の中で小テストを実施し、学力の定着を図る。</li> </ul>
			発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>○合唱活動やリズムアンサンブル等の学び合い学習に取り組みさせることで、表現力の向上と基礎学力の定着を図る。</li> </ul>
	<p>&lt;生徒の実態&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○表現活動（歌唱と合唱・リズム作品創作等）に意欲的な生徒が多く、全体的にのびのびと表現や表現の工夫ができる。</li> <li>○楽典や楽曲についての知識の習得に個人差が見受けられる。</li> </ul> <p>&lt;指導方法の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○表現や楽典に関する基礎練習の継続的な指導の徹底。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○表現活動全般に必要な基礎知識と豊かな身体表現の方法についての指導をスモールステップで計画的に行う。</li> <li>○定期考査や小テストを通して不十分な知識を把握し、適切な指導を行う。適宜放課後の学習会を行う。</li> <li>○表現及び鑑賞の学習動活において「考える・感じる・工夫する・深める学習」につながるワークシートを多く取り入れる。</li> </ul>	補充	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業時の表現学習全般において、個に応じた的確な助言を行う。</li> <li>○ワークシートと小テスト実施の継続で、学力の定着を図る。</li> </ul>
		発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リズムアンサンブルや歌唱のグループ活動において、自主的な学び合い活動を多く設定し、表現力の向上と基礎学力の定着を図る。</li> </ul>	
	<p>&lt;生徒の実態&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○意欲的に表現活動に取り組む姿勢が見られるが、特に歌唱における自己表現を苦手とする生徒が多い。</li> <li>○楽曲の魅力を感じ取り、感じたこと・考えたこと等の自己の考えを文章等で表現することに苦手意識のある生徒が多く見られる。</li> </ul> <p>&lt;指導方法の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○表現及び鑑賞の学習活動を通しての、個及び集団としての表現力の育成と言語活動の充実。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実技テストを通して、生徒一人一人の呼吸法、発声法、発音の仕方を把握し、適切な指導を行う。</li> <li>○話し合いや考えを伝え合う学習活動をなるべく多く取り入れる等、言語活動の活発化と自主的な表現の創意工夫力を促す学習の場を設定する。</li> </ul>	補充	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業時の表現学習全般において、個に応じた適切な助言を行い、主体的かつ意欲的な学習活動を促す。</li> </ul>
		発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歌唱のグループ活動等において、学び合い活動を多く設定し、音楽表現の創意工夫力の向上と基礎学力の定着を図る。</li> </ul>	

教科	授業・指導方法の課題 生徒の実態	授業改善の方策	補充・発展等の具体的な方策及び指導計画
美術科	<p>(実態) ・作品を制作したり、様々な道具を使用したりすることに抵抗がない生徒が多く、意欲的に課題に取り組むことができ、発想豊かに取り組むことができている。</p> <p>(課題) ①より複雑な作品づくりを行う際には、十分な技能が身につけていない生徒も見受けられる。 ②自分の発想をさらに発展させ、題材の目標に沿った表現までは難しい。</p>	<p>①技能によるつまづきや苦手意識を無くし、自らの意図や思いを豊かに表現できるようにする。 ②様々な情報や自分の経験の中から、目的や条件などを基に主題を生み出し、造形的な構成を練らせる。</p>	<p>補充 ①ICT 機器を有効に活用し、分かりやすく伝えられる手立てを行う。技能面で課題の見られる生徒には、個別指導を行い無理なく制作できるようにする。 ②多くのアイデアを示したり、他の生徒の作品を共有したりしながら、主題を生み出せるようにしていく。</p> <p>発展 ①自分の技能に合わせた作品づくりができるように指導していく。 ②自分の発想や構想に合ったアイデア を補完できるようにタブレットを活用する。</p>
	<p>(実態) ・取り組みに対して熱心な生徒が多く、技能面で基礎基本事項が身につけていない生徒数名に基礎を指導しながら全体の制作を進めている。</p> <p>(課題) ①美的感覚を働かせ豊かに発想することが得意な生徒が多い反面、美的感覚が高められておらず、想像力を働かせることが難しい生徒が課題である。</p>	<p>①机間指導の中で、技能に関する指導を行ったり、様々なアイデアを生徒一人一人に合わせて示すことにより、工夫を繰り返して自分の表現方法を見付けだし、更に創造的に表す技能を伸ばす。</p>	<p>補充 ・授業中に取り組む課題の前に、発想のきっかけとなるものを豊富に用意する。課題の内容を理解できない生徒には、参考作品を提示し理解を深める。</p> <p>発展 ・授業中に共通の課題が済んだ生徒には発展課題を用意する。 ・タブレットを利用したり、自ら進んで資料の収集に努めたりするよう促す。 ・『東京都中学校美術展』への出品。</p>
	<p>(実態) ・全体的に集中して熱心に取り組むことができ、作品に対する目標が高い生徒は、納得のいくまで自分の作品に向き合うことができている。</p> <p>(課題) ①技術的には緻密な描写ができる生徒もいる中で、粗雑な作品をつくる生徒もいる。 ②一生懸命取り組めるが、意図に応じて様々な技能を応用したり、工夫したりできない生徒もいる。</p>	<p>①生徒が意欲的に取り組める題材の開発・導入の指導方法を研究する。 ②生徒作品の鑑賞の機会を設け、自身の考えを他者に伝えるとともに、他社の美的感覚に触れ、自己の到達目標を高める機会とする。</p>	<p>補充 ・作品発表の機会を設け、自身の作品について他者に伝えることができるようにする。 ・発達段階を考慮し興味関心を喚起する教材・題材を新たに開発する。 ・技能の工夫について個々のアドバイスに重点を置く。</p> <p>発展 ・校内作品展示による相互顕彰と制作意欲の向上をはかり目標レベルの向上を目指す。 ・資料の貸し出しに限りがあるため、タブレットを利用したり、自ら進んで資料の収集に努めたりするよう促す。 ・『東京都中学校美術展』への出品。</p>

# 令和5年度 授業改善推進プラン

昭島市立瑞雲中学校

教科	授業・指導方法の課題 生徒の実態		授業改善の方策	補充・発展等の具体的な方策及び指導計画	
保健体育科 (男子)	1年	(1) 準備や片付けに対しては積極的に行動できるが、一部安全面への配慮が欠けている生徒がいる。 (2) 指示されたことは行動できるが、実技の場面で各個人の判断で行動することが課題である。 (3) 全体的に基礎体力が身につけていない生徒が多い。 (4) 保健の授業には良好な態度で臨むことができている。用語についての理解もあるが、実生活に結び付けて考える力に課題がある。	(1) 単元の最初や、各授業の最初に安全面への配慮事項を伝え、安全面に配慮した行動が生徒たち自身でとれるようにしていく。 (2) グループ活動で話し合いの場を意図的に設定し、リーダーを中心に自主的に活動ができるようにしていく。 (3) 体づくり運動や補強運動を通して、基礎体力の向上につなげる。 (4) 保健の授業で学習カードを活用し、学んだことを実生活にどのように生かしていくか考えさせる機会を作る。	補充	・授業内における生徒間の教え合いの場面を多く設定し、助言の要点を示し生徒にスモールティーチャーをさせ、運動が苦手な生徒を支援する。 ・段階的に学習ができる場の設定をする。
		発展	・個別の課題学習から発展させ、グループ別や習熟度別で課題学習に取り組めるように授業計画を立てる。 ・課題解決に向けて、グループ別に方法や集団を考え、お互いに学び合う場の設定をする。		
	2年	(1) 授業規律を守り、安全に授業展開ができる。準備や片付けに対しても積極的に行動できる。 (2) 授業では学習カードを活用し、授業の振り返りを行い、自己の課題を毎時間確認でき、次授業に生かすことができる。 (3) 全体的に基礎体力が身につけていない生徒が多い。特に持久力に課題がある。 (4) 保健の授業を通して、けがの防止方法や自身の健康の保持増進の理解を深め、生涯にわたって運動に親しめる資質や能力を高める工夫が必要。	(1) 発達段階や地域性に合わせた課題を設定し、達成できるような、弾力性のある授業計画を行う。 (2) 学習カードを有効活用し、振り返りの機会や学び合いの機会の場を増やし、個に応じた指導ができるようにする。また、言語活動を重視した授業展開を行う。 (3) 体づくり運動や補強運動を通して、運動量を確保し基礎体力の向上を図る。 (4) 各種目の理解を深めるためのプリント作成、定期テスト等において知識・理解の向上を図る。	補充	・授業内における生徒間の教え合いの場面を多く設定し、助言の要点を示し生徒にスモールティーチャーをさせ、運動が苦手な生徒を支援する。 ・必ず示範することで、体の動きを視覚的に理解させる
		発展	・個別の課題学習から発展させ、グループ別や習熟度別で課題解決型学習に取り組めるように授業計画を立てる。 ・課題解決に向けて、グループ学習を展開し互いに学び合う場の設定をし、言語活動の充実化を図る。		
	3年	(1) 意欲的に参加し、前向きに取り組む生徒が多いが、授業規律が浸透していない生徒が存在するため、個々に応じたアドバイスが必要である。 (2) 体育の学習カード・保健の授業・期末考査の結果から、取り組みが十分な生徒とより一層の努力を要する生徒との差が大きい。 (3) 運動技能の水準としては、筋力やスピード系の項目は平均値よりも高くなっている一方、体力面では全身持久力に課題が見られる。 (4) 各種目のルールや保健の授業における知識等の理解、定着度は高い。	(1) 普段の体育の授業や体育的行事に積極的に取り組ませ、基礎体力の向上や運動への意欲を高めるとともに、集団行動の徹底、仲間との協力から授業規律を身につけさせる。 (2) 各種目の習得に学習カードを活用して、毎時間振り返りの機会を与え、課題解決能力の育成に努める。習得すべき課題や安全に対する判断も養っていく。 (3) 体づくり運動や毎時間取り組んでいる体力向上に向けた補強運動を継続的に行い、基礎体力の向上を図る。また、きめ細やかな段階的指導、課題の明確化、繰り返しの練習を増やす。 (4) 体育・保健の両分野の知識や判断力をより一層養い、生涯に渡り健康や安全に寄与する態度を養う。	補充	・視聴覚教材やDVD等を通して視覚による運動の構造を理解する。 ・基礎基本の習得を目標に、毎時間明確な目標を示し、各段階の技術習得において、褒めて励ますことを中心に、良かった点と改善点を伝えていく。
		発展	・グループ学習や習熟度別指導、運動が得意な生徒による仲間へのアドバイスの時間を取り入れる。 ・高度な技術の習得、能力向上を意識させ、意欲的に活動できる場面を意識的に作っていく。		

# 令和5年度 授業改善推進プラン

昭島市立瑞雲中学校

教科	授業・指導方法の課題 生徒の実態		授業改善の方策	補充・発展等の具体的な方策及び指導計画	
保健体育科 (女子)	1年	(1) 授業規律を守り安全に活動できるが興味関心を高く持って取り組む姿勢や完成度に差があるので、個に応じた指導を行う。 (2) 自分で考えて動く生徒が多く、生徒同士のコミュニケーションも積極的にとることができている。 (3) 能力の差が開いているため、段階的な授業を行うことが課題。 (4) 保健・体育理論の授業を通して体力に関すること、健康の保持増進に関することを理解し、生涯にわたって運動に親しめる資質や能力の向上を図るような授業展開を行う。	(1) 発達段階や地域性に合わせた課題を設定し、達成できるように授業計画を行う。 (2) スモールステップで授業を行い、基礎基本を身に付けつつも、種目の特性を経験することができる機会を設ける。 (3) 学習カードを有効活用し、振り返りの機会や学び合いの機会を増やし、個に応じた指導ができるようにする。また、言語活動を重視した授業展開を行う。 (4) 各単元の理解を深めるためのプリント作成、定期テスト等において知識・理解の定着を図る。	補充	・授業内における生徒間の話し合い場面を多く設定する。 運動の得意な生徒が苦手な生徒へ助言をする場面を意図的に設定する。 ・スモールステップの授業展開から習熟度に合わせて授業を行い、運動の苦手な生徒への支援を行う。
		発展	・個別の課題学習から、グループ学習による課題解決型の授業展開ができるように学び合いの場を設定する。		
	2年	(1) 授業規律は良好である。ただ、取り組む姿勢において差があるので、個々への働きかけを徹底する。 (2) 補強運動を継続的に実施し、体力の向上に努める。運動能力や機能面の到達度で個人差が大きいため、基礎技術の習得に努めるとともに個々への働きかけを継続する。 (3) 保健の授業における知識等の理解度は、概ね良好であり、さらに理解を高めていく。 (4) 体育や保健で学習したことが実生活に生かし切れていない現状がある。	(1) 体づくり運動や毎時間ごとに補強運動を行い、筋力・持久力・柔軟性等の向上に取り組み、全体的な体力の向上を図る。 (2) スモールステップで授業を行い、基礎基本を身に付けつつも、種目の特性を経験することができる機会を設ける。 (3) グループ活動で話し合いの場を設定し、他者の意見を取り入れながら自己の考え・行動を振り返らせ、思考力・判断力・表現力・技能の向上を目指す。 (4) 実生活と結びつけた発問や具体例の提示をして、実生活との結びつきを想像しやすくし、考える機会を確保する。	補充	・授業内における生徒間の話し合い場面を多く設定する。 運動の得意な生徒が苦手な生徒へ助言をする場面を意図的に設定する。 ・各種目の習得と個々の課題解決に向けて学習カードを活用するとともに、授業内における生徒間の話し合いの場面を多く設定する。
		発展	・課題解決のために、いくつかの練習方法や技能のポイントを提示し、問題点をグループで話し合わせ、自分たちにあった練習方法を考え、工夫する態度を養うように授業展開を行う。		
	3年	(1) 授業規律は良好であり、何事にも意欲的に取り組むことができている。 (2) 授業の課題設定や振り返りを学習カードにしっかりと記入ができ、グループ活動においても意見交換を積極的に行うことができる。 (3) 身に付けている1つ1つの技能を組み合わせる、試合で発揮する等の発展的な動きに課題がある。 (4) 各種目のルールや保健の授業における知識等の理解度は概ね良好である。	(1) 個々に合わせた課題を設定し、達成できるように授業計画を行う。 (2) グループ活動で話し合いの場を意図的に設定し、リーダーを中心に個々の能力に応じた動きを考えて自主的に活動ができるようにしていく。 (3) 各種目の習得にICTや学習カードを活用して、自らの動きについて考察できるようにしたり、毎時間振り返りの機会を与えたりして、課題解決能力の育成に努める。 (4) 知識面では各項目で視聴覚教材の活用やプリントによる説明を通して、本時のねらいや競技のポイントを細やかに説明し、定着を図る。	補充	・授業内における生徒間の話し合い場面を多く設定する ・実技の授業ではICTを活用し、自身の体の使い方や動きを確認・理解できるように授業展開を行う。 ・学習カードの教師のコメント欄を活用し、運動に対して関心・意欲の低い生徒への支援を行う。
		発展	・個々の応力に応じた役割分担や作戦を考える時間を設定する。 ・課題解決に向けて、グループ別に方法や集団を考え、お互いに学び合う場の設定をする。		

# 令和5年度 授業改善推進プラン

昭島市立瑞雲中学校

教科	授業・指導方法の課題 生徒の実態		授業改善の方策	補充・発展等の具体的な方策及び指導計画	
技術科	1年	<p>1 授業指導方法の課題</p> <p>(1) 情報領域：授業・指導方法の課題 情報分野は難しい用語が多いため、用語集を配布したり、グループワークを取り入れたが、用語の意味を理解することに苦戦している生徒が多くみられた。</p> <p>(2) 材料と加工領域：授業・指導方法の課題 工具を用いての作業に苦手意識を持つ生徒が多いため、作業に時間がかかってしまう生徒が多くみられた。</p> <p>2 生徒の実態：配慮が必要な生徒が多い。</p>	<p>○情報領域：最低限の目標設定を行うなどして、生徒がモチベーションを保てるようにする。</p> <p>○材料と加工領域：実際に師範を行うことに加え、タブレットで作業の様子を撮影するなどして、自分の作業の様子を見返せるようにすることで、生徒の課題の改善を図っている。</p>	補充	<p>・作業が遅れている生徒には、机間指導の際にアドバイスを与えている。</p>
		発展	<p>・作業が進んでいる生徒には、製作品の改良や、レポート課題に取り組みさせている。</p>		
	2年	<p>1 授業指導方法の課題</p> <p>(1) エネルギー変換領域：授業・指導方法の課題 理科の学習内容を重複するような内容が多いため、理解度に差がある。</p> <p>(2) 生物育成領域：農作業は体力を消費するため、集中が続かないことがある。</p> <p>2 生徒の実態：教科に対して、興味関心が薄い生徒が一定数おり、積極的に活動できない。</p>	<p>○エネルギー変換領域：授業の手順やポイントをまとめた授業資料や用語集を配布して、見返せるようにしている。</p> <p>○生物育成領域：タブレットを利用することで記録（写真を撮影するなど）を簡略化しており、レポート課題などに取り組みやすいようにしている。</p>	補充	<p>・作業が遅れている生徒には、放課後に補習を行う。</p>
		発展	<p>・作業が進んでいる生徒には、製作品や栽培方法の改良や、次期の製作品の事前学習を行わせる。</p>		
	3年	<p>1 授業指導方法の課題</p> <p>(1) 情報領域：週0.5時間であるため、授業数が不足している。また、授業の間隔が大きく開いてしまい、知識や技能の定着が難しい。</p> <p>(2) エネルギー変換領域：(1)と同様である。</p> <p>2 生徒の実態：成績への関心が高いものの、努力できない生徒が一定数いる。</p>	<p>○情報領域：重要語句をまとめた資料を配布することで、実習時間を確保できるようにしている。タブレットで資料と、印刷物との両方を配布しており、生徒にあった方法を提供している。</p>	補充	<p>・生徒一人一人の状況を把握し、必要に応じて、個別に作業を援助していく。</p>
		発展	<p>・スクラッチなどの簡易的なプログラミング言語だけでなく、JavaScriptなどのプログラミング言語の学習も行っている。</p>		

# 令和5年度 授業改善推進プラン

昭島市立瑞雲中学校

教科	授業・指導方法の課題 生徒の実態		授業改善の方策	補充・発展等の具体的な方策及び指導計画	
家庭科	1年	(1)新たな気持ちで中学校家庭学習に取り組み、アドバイスの対しても素直に聞き入れ、頑張ろうとする生徒も多いが、玉結び・玉留めなどの基礎的なことが定着していない面もある。	(1)できたことに関してほめるなど教師による声かけをすることで頑張ろうとすることができるので、机間指導を行いながらきめ細かい指導をしていく。また、タブレットの動画なども活用する。	補充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進度が遅れている生徒には、できるようになるまで丁寧に指導を行っていく。</li> <li>・自ら考えて作業をすることが困難な生徒に対してこまめに声かけをし、自分の力で進められるようにアドバイスを行っていく。</li> </ul>
		(2)課題への積極的な取り組みや、発言をする生徒が多く見受けられるが、デザインなどを工夫して考えるということに、苦手意識のある生徒が多い。	(2)発言を誘発出来るような問いかけを意識した授業展開を行い、さらに発言する生徒を多くする。デザインなどの工夫に関しては、参考となるデザイン画やできあがり標本を展示する。	発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業の進みが早い生徒には、班の中でミニ先生役をさせたり、プラスアルファの作品を制作させたりする。</li> </ul>
	2年	(1) 小学校での学習で習得しているはずのミシンの扱いなどはや道具の使い方についての経験不足が多いが作品作りについては前向きに取り組もうとする生徒が多い。	(1) ミシンなどの使用方法については、その日のポイントとなる動画を見せ、目で確認させた後で実物を見ながら解説をし、実際に作業をさせる。	補充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすい説明を行い、進度が揃う様に指導を行っていく。特に実習では、ミシンや裁縫道具の使い方などを丁寧にやっていく。</li> </ul>
		(2) デザインを考える段階では、まだ現実と向き合えていない生徒も多かったが、実習が進むにつれより意欲的に取り組める生徒も増えてきた。	(2) 段階標本を使用し、板書とともに説明し、いつでも見本として観察できるようにしておく。また、意欲が喚起できるようできあがり標本を展示する。	発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習授業で進度にばらつきが出てくるが、丁寧に教え、自らの手で作品を完成させられるような指導を行っていく。作業が速い生徒に関しては、より工夫できるように指導を行っていく。</li> </ul>
	3年	(1) 1年生からの積み重ねを意識しながら授業に取り組む生徒も多く、ほとんどの生徒は課題に対して積極的に取り組んでいる様子が見られる。しかし、中には少ない時間の中での実習時間を生かし切れない生徒が多少見られる。	(1) 幼児の成長については実話なども折り込みより興味をもつようにさせる。作品作りに関しては実物の提示や、作品展示を示唆して良い物を作ろうとする気持ちを育て、次の時間にすべきことを具体的に伝えていく。	補充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の内容を深く理解できるように、わかりやすい指導を行い、自分で考えて課題解決をできるような指導を行っていく。</li> </ul>
		(2) 幼児の成長について、体・心・生活習慣に分けて学習したことを、一つの体系として理解しようとする生徒が多い。	(2) 幼児の成長や取り巻く環境についての学習後に、物語の提供や映像などを見せて、まとめや感想を述べさせ理解したことを自分が育ってきた環境と関連させていくことができるようにする。	発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題理解が早く、先に進んでいる生徒に対しては、他にどのような考え方があのかなどの問いかけを行い、新たな答えを導き出せるような指導を行っていく。</li> </ul>

# 令和5年度 授業改善推進プラン

昭島市立瑞雲中学校

教科	授業・指導方法の課題 生徒の実態		授業改善の方策		補充・発展等の具体的な方策及び指導計画	
英語科	1年	(1) 既習事項の定着に時間がかかる (2) 基礎・基本の文法事項の定着に時間がかかる (3) まとまりのある文を考えることが難しい	(1) ①既習事項の演習を繰り返し行い、何度もアウトプットさせる。 ②單元ごとの既習文法を用いたテストを定期的に行う。 (2) ①まずは言いたいことを日本語で考え、英語で表現する活動から、英語で表現するためのプロセスを理解させる。また、文法の正確さよりも表現できる文の数を増やすため、対話のパターンや表現の仕方を教え、何度も繰り返し練習させる。	補充	・既習事項の定着を図るために、単元テストや小テストを行う。 ・帯活動で会話活動を増やす。 ・パターンプラクティスなどの反復練習を多く取り入れる	
	2年	(1) 基礎・基本の定着に課題が見られる。 (2) スピーキングやライティング等、既習事項を用いて英語で表現することに課題をもっている生徒が多い。	(1) ①授業の最初のウォームアップ活動として、単語や既習事項をもとにした活動を継続的に行う。 ②アクティビティの中にパターンプラクティスを取り入れ、新出表現に慣れるようにする。 ③単元の終わりに各パートで学んだことを復習し、繰り返し学習する機会を多く設ける。 (2) ①授業の中で、お互いに教え合い、学び合える活動の時間を取り入れる。 ②身近なことや自分の考えを表現する場面を設定する。	補充	・既習事項の定着を図るために、単元テストや小テストを行う。 ・スピーキングの機会を増やすため、ペアやグループで発表する機会を設定する。	
	3年	(1) 全国学力調査の結果より、基礎・基本の定着に課題が見られる。 (2) 表現力（特に書く能力）に苦手意識をもっている生徒が多い。 (3) 全国学力調査の質問用紙では英語の勉強が大切であり、将来必要であると考えている反面、英語の学習を苦手としている生徒が多いことが分かる。	(1) ①くり返し学習をする機会を多く設ける。 ②ウォーミングアップで、既習事項を取り入れた活動を通して基本文の定着を図る。 ③生徒同士の教え合い活動を通して、お互いの理解を深めていく。 (2) ①教科書や辞書などを活用して、まずは自分自身で書く取組の多い授業を展開していく。 ②都立3文英作文の対策もしながら、表現力を養っていく。	補充	・既習事項の定着を図るために、単元テストや小テストを行う。	
				発展	・内容に応じて別の課題を提示する。 ・入試対策問題など、実践を見据えた問題演習を行う。	